

ひとはく通信

ハーモニー

114

Sep.2021

展示特別企画

身近な海のベントス展

潮間帯の潮溜りに潜むスベスマンジュウガニ

～種子標本～

種子や果実の標本は小さくて見栄えがしないものも多く、乾燥標本にするともとの色彩は失われてしまいます。このような種子、果実を展示に使用するには工夫が必要です。種子や果実は大きさや形が様々なため、展示に適した標本の規格化が必要となってきます。規格化に利用する展示素材として、安価に入手できる実験培養用の乾熱滅菌シャーレがあります。乾熱滅菌シャーレは無色透明で、サイズも直径10cmから15cmまで各種あります。

シャーレに種子標本を種類ごとに保存しておけば標本の扱いが便利になります。このように規格化したシャーレに入れた種子標本を多数作っておけば、様々なテーマの展示にも標本の選択、並び替えで対応できます。

シャーレは無色透明なので、展示する種子標本に応じて背景の色彩や照明を変えて展示することができます。標本はシャーレに密封されているため、直立した壁面などにも展示が可能となります。また有用植物、種子散布などのテーマごとに、昆虫標本を収めるドイツ箱に収納しておけば、持ち運びが簡便化されて、移動展示や短期間の展示などにも対応できます。

藤井 俊夫 (生物資源研究グループ)



ネーブルオレンジのスライス標本
左 背景白色、右 背景黒色

トピックス

ひとはく活用術

～スペシャルのんびり時間を「えんがわミュージアム」で!～

日本家屋でいう縁側は、座敷の外側に沿った板敷の部分指します。縁側は家の中と外をつなぐ中間的な領域で、庇や建具と一緒にあって風雨を遮り、夏の強い日差しや冬の寒さを和らげます。また、夕涼みや日向ぼっこをしながら家族が集まる団らんの場合、隣近所の人気軽に訪れる身近な社交の場などでもあります。すいかを食べたり、おしゃべりをしたり、ぼーっと庭を眺めたり…昔はよく縁側で過ごしたなあという方も多いのではないのでしょうか。



博物館1階出入口から深田公園へとつながるスペースは、屋外ではありますが雨のかからない縁側のような空間となっています。この場所を生かし、博物館の中と外、そして人と人、人と自然をゆるやかにつなごうということで、えんがわミュージアムは始まりました。当日はイスやテーブルを並べ、採集道具の無料貸し出しを行います。虫捕りや自然観察を楽しみながらお寛ぎください。博物館に入館していなくてもOKです!

黒田 有寿茂 (生物資源研究グループ)

